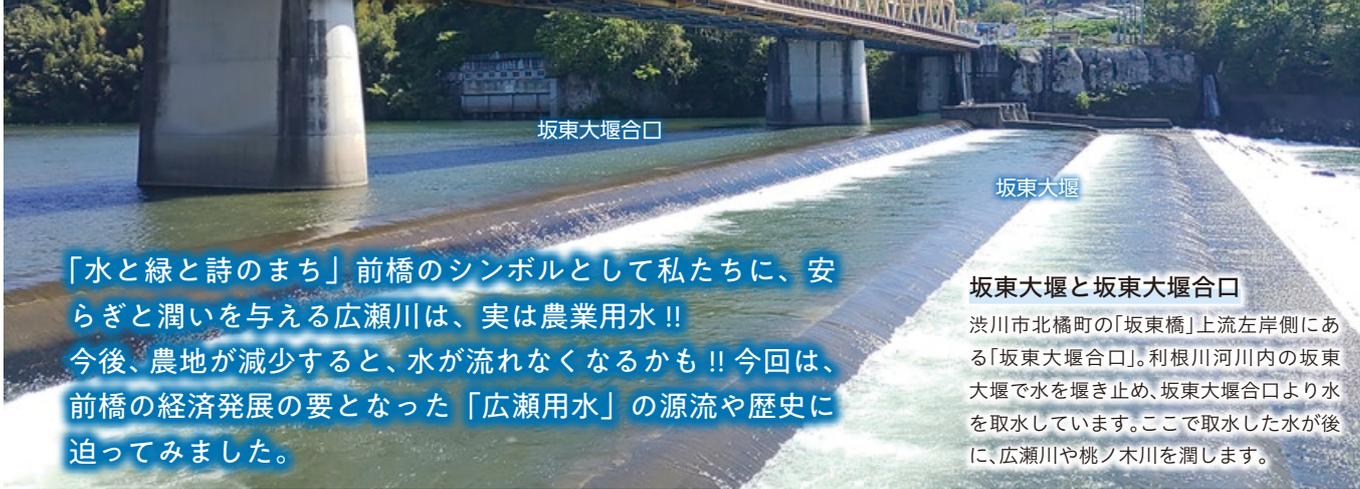


知りたい!

# 前橋の象徴「広瀬川」!!

# まえばしNOW!

～まちなかの河畔整備が進む今だから、  
その源流と歴史を知ろう～



坂東大堰合口

坂東大堰

「水と緑と詩のまち」前橋のシンボルとして私たちに、安らぎと潤いを与える広瀬川は、実は農業用水!!  
今後、農地が減少すると、水が流れなくなるかも!!今回は、前橋の経済発展の要となった「広瀬用水」の源流や歴史に迫ってみました。

## 坂東大堰と坂東大堰合口

渋川市北橋町の「坂東橋」上流左岸側にある「坂東大堰合口」。利根川河川内の坂東大堰で水を堰き止め、坂東大堰合口より水を取水しています。ここで取水した水が後に、広瀬川や桃ノ木川を潤します。

## 管理団体の歴史と変遷

広瀬桃木両用水土地改良区は、利根川から取水する「広瀬川」や「桃ノ木川」など、前橋市内を流れる農業用水を管理する公共団体です。前橋市内を流れる広瀬川、桃ノ木川、風呂川、馬場川等の河川は、農業用水として利根川から取水することを国土交通省より許可を得て流れています。これを「農業用水利権（許可水利権量）」といい、各河川を流れる農業用水を使って「農地（水田）」を耕作する農地の面積に応じて許可水利権量が決定しています。各河川は「農地（水田）」の耕作時期に合わせて許可水利権量が決まっており、年間を通して通水量も変動しています。グリーンロードム前橋の北東を流れる風呂川は、昭和39年まで広瀬川から直接、分水されています。建設当時の粘土で締め固められた水路が現存し、今も活用

されています。また、馬場川は前橋市大手町地内で風呂川から分水され、市街地を流れて下流域で農地を潤しています。本土土地改良区の歴史は、応永年間（1300年代）まで遡ります。利根川の変流により現在の「広瀬川」や「桃ノ木川」ができ、その頃から多くの夫役により管理されてきたと、古文書に残っています。そして、明治時代に「広瀬桃木両堰水利士功会」、「広瀬桃木両堰普通水利組合」と変革し、昭和27年の土地改良法施行により、現在の公共法人へ組織変更となりました。

## 広瀬川の起源と利用

広瀬川は、「広瀬用水」と呼ばれ、現在の前橋市街地中心部を北西から南東に流下していた利根川が1542年の大洪水によって市街地西部に流れを変え、残された広漠たる犯濫原を領主主管で開拓し、かんがい用水を求めるため旧河道を利用して造られたと言われています。1601年、酒井重忠が前橋（厩橋）城主となってからは城主の管理下となり、城内下の生活用水、江戸への年貢米や城下に物資を運ぶ通船にも利用され、1645年から用水筋には数箇所河岸が開設されるなど古くから地域住民の生活の一部となっていました。その後、明治時代には前橋市内における製糸業にも多く使われ、「糸のまち」として栄えました。

## 現代における役割

現在は2市1町の約1,550haの農地（水田）を潤す他、防火・環境用水等多目的に利用され、6月～10月のかんがい期には最大毎秒15m<sup>3</sup>の水量が流れています。なお、近年の豪雨対策として24時間遠隔監視を行い、管理に努めています。また、広瀬川は平成17年度に農林水産省より全国の「疎水百選」に選出されています。

「広瀬川(広瀬用水)」の  
スタート地点



広瀬川制水門

「疎水百選」にも選出された広瀬用水のスタート地点。グリーンドーム前橋の北東に位置し、住宅内を勢よく水が流れていきます。

水しぶきが印象的な  
広瀬川散策の休憩スポット



交水堰

明治時代には製糸業が発展し水車や工業用水としても利用され、「糸のまち」の往時を偲ばせる堰。現在は大柳に囲まれ、春には桜とのコントラストで前橋を代表する魅力的景観のひとつとして親しまれています。

前橋市街地中心部で  
「サップ!？」



River'FES in 広瀬川

市民に広瀬川を更に親しんで貰うことを目的に、交水堰を利用してRiver'FESを開催しています。「サップ」でのタイムトライアルやアヒルの人形を使ったダックレース等子供から大人まで楽しめるイベントを行っています。

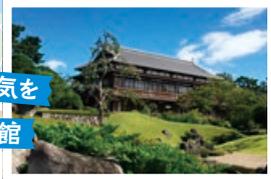
広瀬川河畔にたたずむ  
朔太郎の生家跡



萩原朔太郎記念館

広瀬川白く流れたり  
時さればみな幻想は消えゆかん。  
われの生涯を釣らんとして  
過去の白川辺に糸をたれしが  
ああかの幸福は遠きにすぎさり  
ちひさき魚は眼にもとまらず。  
「広瀬川」(『純情小曲集』1925)  
詩人 萩原朔太郎

明治時代のレトロな雰囲気  
を残す迎賓・貴賓館



臨江閣

1884年9月、当時の群馬県令・楢取素彦や市内の有志らの協力と寄付により迎賓館として建てられました。近代和風の貴重な木造建築で、本館・別館・茶室から成る、国指定の重要文化財です。

「近代詩のふるさと」  
ならでは資料の数々



前橋文学館

「水と緑と詩のまち」の前橋。平井晩村、高橋元吉、萩原恭次郎、伊藤信吉ほか前橋ゆかりの多くの詩人の直筆原稿などを展示。特に、口語自由詩を確立し、近代詩史に大きな足跡を残した。朔太郎資料は原稿など全国一の質と量を有します。

取材協力

広瀬桃木両用土地改良区  
事務局長 小池俊也

前橋市昭和町一丁目2番7号  
TEL:027-231-2090  
URL:http://www.koutou-t.jp  
施設見学や説明会も行っています。  
ご希望の方はご連絡ください。

岡本太郎氏による  
幻の作品



太陽の鐘

1999年まで静岡県内のレジャー施設に設置されていた、世界的芸術家である岡本太郎氏による作品「太陽の鐘」。施設が閉園後20年ほど眠っていた幻の作品が2018年に前橋のシンボルとして、広瀬川河畔に移設されました。

明治時代の建物を  
彷彿する分水堰



十六本堰

16本の杭で造られたことから由来する「十六本堰」。広瀬川から端気川を分水する広瀬川水系最大の分水堰。2000年に改修が完了し、現在のレンガ作りの堰建屋へと変わりました。